

．「基準」ごとの自己評価

基準1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1-1 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

〈1-1の視点〉

1-1- 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。

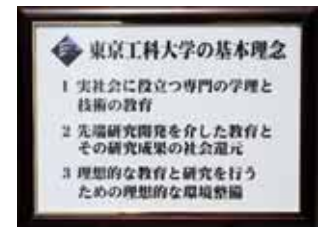
(1) 1-1の事実の説明（現状）

東京工科大学は、昭和61年度に開学してから21年、社会ニーズに対応した高度な実践的かつ指導的技術者の教育を行ってきた。

この建学の精神に基づいて定められた本学の基本理念は、次の3項目からなり、教職員一人ひとりの判断や行動の基軸としている。

図 1-1-1 基本理念の額装

実社会に役立つ専門の学理と技術の教育
先端研究開発を介した教育とその研究成果の社会還元
理想的な教育と研究を行うための理想的な環境整備



基本理念は、以下のように様々な方法で学内外に示されている。

- ・ 基本理念を明記した額装を全教室、研究実験室、事務室に設置し、学生および教職員に周知徹底を図っている。
- ・ 学生生活の指針である学生便覧や全学生に配布する学生手帳に基本理念を明記し、基本理念の潜在意識化を図っている。
- ・ 入学式において、学長が新入生やご父母に向けて本学の基本理念の説明を行って広く理解を求めている。ここで説明された学長の訓話を学報に掲載し、学生および教職員に配布している。
- ・ 「教職員セミナー」を実施し（年間4、5回程度）、その中で本学の基本理念やミッション、本学の目指すものを全教職員に対して周知し、理解を深めている。
- ・ 本学の教育を補助している学外の実験講師、演習講師、TA（ティーチングアシスタント）に対し、4月の着任前にガイダンスを実施し、副学長から基本理念の説明を行って、本学の教育目的の理解を求めている。
- ・ 受験生向けの大学案内（ALL ABOUT）や本学のホームページに掲載し、学内外に広く周知する努力を行っている。ホームページアドレスは次のとおりである。

<http://www.teu.ac.jp/gaiyou/006364.html>

- ・ 毎年、父母懇談会用冊子を作成し、すべてのご父母に対して、郵送している。その巻頭の学長挨拶の中で本学の基本理念について説明を行っている。
- ・ 企業向けの求人案内パンフレットに基本理念を掲載し25,000社に対して郵送して、本学の基本理念を周知している。

(2) 1-1の自己評価

- ・教職員セミナー、ガイダンス、学生への配布物等で除々にではあるが、理解され、教職員や学生の行動規範となりつつある。
- ・さらに徹底させるために教職員の具体的な教育やサポートとの関連を目に見える形で示す必要がある。これによって学生への浸透度を高めることができる。
- ・学内外において、多くの機会をとらえて基本理念の周知を図る努力を行っている。今後、特に学外に広く周知させるには、文章表記ではすぐには認識されにくく、いつでも基本理念を思い浮かべることは難しいと考えられ、誰にでもすぐに理解される表現を工夫する必要がある。

(3) 1-1の改善・向上方策（将来計画）

- ・基本理念の周知徹底を図るためには、教職員セミナーをとおして基本理念の具体的方策を明らかにし、堅固な行動基軸とする。
- ・本学の基本理念について、学外への周知が十分とは言えない。引き続き、根気強く基本理念に対する理解を深めていく必要がある。一つに、基本理念の三つの文章をキーワード化し、誰にもすぐに理解でき、覚えやすい言葉とすることでさらなる周知徹底を図ることができる。学長のリーダーシップのもと基本理念のキーワード化を検討する。

1-2 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。**〈1-2の視点〉**

- 1-2- 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。
- 1-2- 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。
- 1-2- 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

(1) 1-2の事実の説明（現状）

本学の使命・目的は、基本理念に基づき次のとおり定められている。この四つの目的を達成するため「Only one, Best Care」（OBC）という行動規範を掲げ、教職員が一丸となって教育改革に取り組んでいる。

学生の個性を重視した教育の実施

先端技術教育による実社会に役立つ技術者や多様なエキスパートの育成

ICTに精通した技術者や多様なエキスパートの育成

国際的人材育成のための外国語（特に英語）の実践教育

これらは、以下のような方策によって周知されている。

- ・入学式において学長が式辞の中で新入生および保護者に対して口頭で伝達している。
- ・各学部長から、4月の授業開始前に実施される新入生および在学生ガイダンスの中で本学の基本理念や使命・目的を説明し、理解を求めている。
- ・新入生に配布する「学生便覧」、「シラバス・講義概要」、「教員紹介」、「学生手帳」に基本理念を明示し、その中で本学の教育目標である「学生の個性を尊重し、創造性、自立性、実学を身に付けた世界に通用する人材を育成し、産業界や社会に貢献すること」

が明記されている。

- ・学外へ広く周知する方法として、本学ホームページに本学の基本理念および大学の使命・目的を公開している。ホームページアドレスは、次のとおりである。

<http://www.teu.ac.jp/gaiyou/006364.html>

- ・受験生や高等学校教員に対し、大学案内（ALL ABOUT）や冊子「Only one, Best Careだからできる東京工科大学の就職力」で公表している。また、高等学校の進路指導教員を対象とした入試説明会では、学部紹介の中で口頭による周知をしている。

(2) 1-2の自己評価

- ・本学の使命・目的として、四つの柱を設けて明確化し、それを実践するために、教職員の行動規範として「Only one, Best Care」（OBC）というキーワードを掲げている。OBCは、グローバルな時代や情報化社会という激しい変化の中で、社会や産業界で求める人材育成に対応するものであり、教職員が一つの方向に向かって改革を行っていく指針である。
- ・周知徹底については、学生への配布資料の掲載で機会があるごとに実施している。また、教職員については、教員、事務職員の全員を対象とした教職員セミナーにおいてOBCに則した具体的な取組の検討をしており、周知ができていると評価する。
- ・学生への周知は、現在の取組みだけで十分ということではできないので、より深く周知徹底する方法を考える必要がある。
- ・学外の公表については、主に本学ホームページで広く公表している。ホームページアドレスは次のとおりである。 <http://www.teu.ac.jp/gaiyou/006364.html>
また、受験生や高等学校教員に向けては、様々な広報媒体の中で公表している。学内への周知と比較して、卒業生や企業、教育関連機関等へは遅れをとっていると判断している。様々な媒体やメディアを利用して公表することが今後の課題である。

(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）

- ・本学の使命・目的の学生への周知については、1年次に設けられている「学習技法」や「フレッシューズゼミ」の授業の中において、教員から「大学生活とは何か」、「大学で学ぶ目的は何か」との講話に加えて「東京工科大学の使命・目的」についても理解を深める機会を設定することが重要である。教務委員会を中心に具体的な方策を検討する。
- ・学外に向けての公表については、同窓会報の中に本学の使命・目的を明示し、卒業生に対して理解を求める。卒業生がこれからの大学の発展に寄与し、卒業生の協力を得ることにより、大学に新しいシナジーが生まれるものと考えている。同窓会との連携を図りながら検討を行う。
- ・広く学外に大学の使命・目的を公表することは、大学と社会との信頼関係の構築に重要と考える。本学の使命・目的の公表の方法として、教職員の名刺に「Only one, Best Care」を印刷し、社会への理解を深めることを検討する。

[基準 1 の自己評価]

- ・ 本学の建学の精神、基本理念および使命・目的は、明確に定められ、入学式やガイダンス等の行事、各種印刷物や教室への額装の設置等を通じて、学内の在學生に周知されている。
- ・ 教職員セミナーおよび実験講師、演習講師、TA の着任前ガイダンス等の行事における講話や各種印刷物を通じて学内の教職員に周知されている。
- ・ 学外への公表については、ホームページや大学案内等を通じて行っているが、今後、社会の広範囲な対象へ誰にもわかりやすく有効な方法で、本学の基本理念を理解してもらえるように改善すべきであり、今後、さらなる努力が必要である。

[基準 1 の改善・向上方策（将来計画）]

- ・ 在學生への周知をより徹底させるには、授業の中において本学の使命・目的の理解を深め浸透させる授業内容を設けることや各種印刷物や学内でのホームページなど機会があるごとに、継続的に行っていかなければならない。
- ・ 学外の公表は、まだ不十分な点があるので、同窓会や大学から発信する刊行物や様々なメディアを通じて、積極的な工夫改善を行い、本学への理解をより一層深める努力を行う。例えば、教職員が持つ名刺に「Only one, Best Care」を印字したり、様々なパンフレットや広報媒体に明記することを具体化する。